



《令和 8 年度 第 3 号》

“コノホシ”栽培情報

コ・ノ・ホ・シ

発行日 令和 8 年 7 月 15 日

発 行 J A 兵庫みらい

監 修 加西農業改良普及センター

地球温暖化により始まった研究、その期間約 10 年。
研究現場にはこの地球（ホシ）のことを想い、汗を流す人がいた。
地球（ホシ）と米の関係を憂い、研究に協力する農家の方がいた。
空と、土（大地）と、金色に輝く稲穂。
このお米は、兵庫県の人々が地球（ホシ）のことを想いながらいただく。
このホシで生まれた「米」を、賑々と引き継ぐために。

今回はイネカメムシについてお知らせします。

1. 不稔被害を発生させるイネカメムシにご注意ください。

近年全国的に発生しているイネカメムシですが、昨年は兵庫県下ほぼ全域で発生が確認されました。

イネカメムシによる特徴的な被害として最も気をつけなければいけないのが、出穂直後の稲を吸汁加害することで不稔被害が発生してしまうことです。斑点米と異なり、不稔被害が発生すると実入りがなくなってしまうため、イネカメムシが多発した際は大幅な減収の要因となります。

さらに、イネカメムシは他のカメムシ類と同様に斑点米被害も引き起こします。



2. イネカメムシの被害対策について

イネカメムシは畦畔の雑草よりも稲を好んで加害するため、特に出穂が早い早生品種は集中加害を受ける可能性が極めて高くなります。

不稔被害と斑点米被害を防ぐためには、出穂期の防除を徹底してください。

栽培暦に準じた穂ばらみ期（出穂始め）に 1 回目の防除、出穂 7 日後に 2 回目の防除を徹底してください。

※出穂期：全茎（穂）数の 40～50% が出穂した日。



～連絡先～

加西営農生活センター	0 7 9 0 - 4 7 - 1 2 8 6
小野営農生活センター	0 7 9 4 - 6 3 - 6 9 0 5
三木営農生活センター	0 7 9 4 - 8 2 - 6 1 5 0